

要 覧

OUTLINE

群馬県畜産試験場

Gunma Prefectural Livestock Experiment Station



本館および総合実験棟

〒371-0103 群馬県前橋市富士見町小暮 2425

TEL 027-288-2222(代) FAX 027-288-2243

Livestock Experiment Station

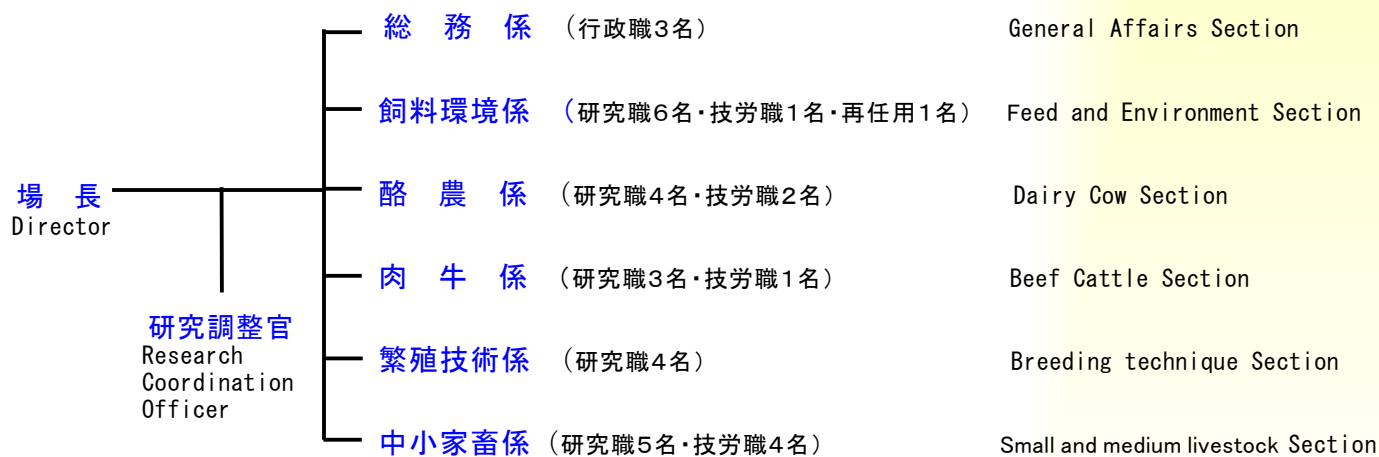
2425 Kogure, Fujimi, Maebashi, Gunma 371-0103 Japan

ホームページ
Eメールアドレス

<https://www.pref.gunma.jp> (群馬県ホームページ)
chikushi@pref.gunma.lg.jp

組織構成

ORGANIZATION



(研究職のうち獣医師4名)

飼料環境係

Feed and Environment Section

- ・ 飼料作物の省力多収栽培技術の開発
- ・ 飼料作物の収穫調製技術の開発
- ・ 家畜ふん尿処理及び利用技術の開発
- ・ 低コスト臭気対策技術の開発



開放型畜産施設向けネット式脱臭装置



高タンパク質自給粗飼料の生産調整技術の開発



畜産環境に配慮した生分解性高分子凝集剤効果の検証

酪農係

Dairy Cow Section

- ・ 乳牛の低コスト生産技術の開発
- ・ 牛乳の高品質・高位生産技術の開発
- ・ 温室効果ガスの測定及び排出抑制技術に関する研究
- ・ 抗菌剤使用低減に関する研究



搾乳ロボット内での乳牛呼気ガス測定

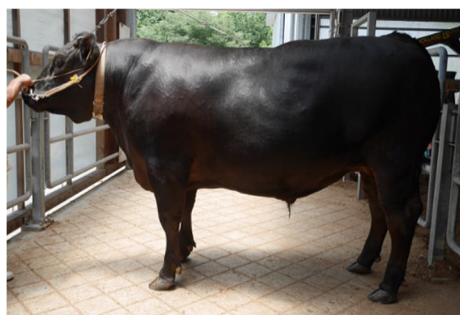


個体識別ドアフィーダを使用した飼料給与試験

肉牛係

Beef Cattle Section

- ・ 肉牛の肥育期間短縮に関する研究
- ・ ゲノム育種価を活用した効率的肉牛生産技術の開発
- ・ 群馬県産牛肉のブランド力向上に関する研究
- ・ 温室効果ガスの測定技術に関する研究



黒毛和種短期肥育試験(24ヵ月齢出荷)
: 枝肉重量 572kg、胸最長筋面積 81 cm²、BMSNo.12



枝肉撮影用カメラを用い、群馬県産牛肉の脂肪交雑の細かさを評価

繁殖技術係

Breeding technique Section

- ・牛の繁殖技術に関する研究
- ・優良受精卵及び子牛の生産と供給
- ・黒毛和種繁殖基礎雌牛の選抜改良



牛舎で生まれた子牛



新繁殖育成牛舎(令和4年5月完成)

中小家畜係

Small and medium livestock Section

- ・豚肉の低コスト・高位生産技術の開発
- ・豚の人工授精用精液の生産及び配布



繁殖能力と肢蹄改良に向く種雄豚



繁殖雌豚の光線管理

- ・鶏卵・鶏肉の低コスト・高位生産技術の開発
- ・上州地鶏の改良増殖と供給



鶏の経済能力検定及び長期飼育技術の開発



国内最大級の地鶏「上州地鶏」

沿革

HISTORY

明治 31 年	(1 8 9 8)	群馬県農事試験場で家畜を飼養
3 8 年	(1 9 0 5)	前橋市岩神町に群馬県農事試験場畜産部として発足
大正 9 年 4 月	(1 9 2 0)	群馬県種畜場として独立
1 1 年	(1 9 2 2)	勢多郡富士見村大字小暮へ移転、前橋で豚・鶏業務を継続
1 2 年 1 1 月	(1 9 2 3)	主な施設の建設、移転を完了し、牛・馬・山羊を飼養、改良増殖、生産物の配布並びに技術指導等、種畜場本場として本格的に事業を開始
昭和 1 9 年 3 月	(1 9 4 4)	前橋の豚・鶏業務を吸収し、総合種畜場として内容を充実
3 7 年 4 月	(1 9 6 2)	新しい技術開発の要請に応えるため「畜産試験場」に改称し組織改編
平成 元 年 4 月	(1 9 8 9)	組織改正により受精卵移植課、吾妻肉牛分場を新設
1 5 年 3 月	(2 0 0 3)	畜産試験場再編整備計画に基づく本館、実験棟、養豚・養鶏・大家畜畜舎等主要施設の整備を完了
1 5 年 4 月	(2 0 0 3)	部課体制から 8 グループ・1 センター体制に組織改編
2 1 年 5 月	(2 0 0 9)	市町村合併により所在地が前橋市富士見町小暮(現在地)に変更
2 6 年 4 月	(2 0 1 4)	6 係・1 センター体制に組織改編
令和 3 年 3 月	(2 0 2 1)	拠点整備交付金を活用して搾乳牛舎増築整備
令和 4 年 2 月	(2 0 2 2)	拠点整備交付金を活用して育成牛舎整備
令和 4 年 4 月	(2 0 2 2)	吾妻肉牛繁殖センターを廃止し、7 係体制に組織改編
令和 4 年 5 月	(2 0 2 2)	拠点整備交付金を活用した黒毛和種繁殖育成牛舎が完成

用地と建物 LAND AREA AND BUILDINGS

区 分		面積・棟数
用 地 (m ²)	本館・畜舎	248,779
	畑	418,779
	防風林その他	43,298
	貸付地	0
	計	710,856
建 物 (棟)	本館(総合実験棟)	1
	畜舎・実験施設	30
	倉庫、その他	14
	計	45

施 設 EXPERIMENTAL PLANT

エリア名	施 設 等 名 称	エリア名	施 設 等 名 称
本 館	本館・総合実験棟、研修棟、倉庫	環境研究	ふん尿処理実験棟、風洞実験棟
酪農研究	搾乳牛舎、哺乳・育成牛舎、牝陰舎 等	飼料研究	飼料作物棟、農機具格納庫、給油施設 等
肉牛研究	肉牛舎、敷料庫	クリーンセンター	堆肥舎、発酵施設、乾燥施設、汚水処理施設、脱臭施設 等
繁殖研究	繁殖育成牛舎、受精卵採取棟、供卵牛舎、堆肥舎 等	その他	隔離畜舎、繋留舎
養豚研究	種雄豚舎、繁殖豚舎、育成豚舎、検定豚舎、試験豚舎 等		
養鶏研究	成鶏舎、種鶏舎、肉用鶏舎、ふ卵舎、育雛舎 等		

家畜飼養頭羽数、飼料作物作付面積 NUMBER OF LIVESTOCK, FIELD PLANTED AREA

牛	区分	おす	めす	去勢	計
	ホルスタイン種(成牛)	—	61	—	61
	ホルスタイン種(育成牛)	—	65	—	65
	肥育試験牛	—	3	22	25
	黒毛和種繁殖牛	—	89	—	89
	計	—	209	23	232

鶏	区分	おす	めす	計
	試 験 鶏	—	2,266	2,266
	種 鶏	208	2,616	2,824
	計	208	4,882	5,090

豚	区分	おす	めす	子豚	計
	ランドレース種	6	8	47	61
	大ヨークシャー種	3	2	—	5
	デュロック種	3	6	—	9
	交雑種	—	6	219	225
	計	12	22	266	300

草種		面積 (延べ)	利用方法
本場	トウモロコシ	13ha	サイレージ
	混 播 牧 草	4	ロールサイレージ
	イタリアンライグラス	18	ロールサイレージ
	その他	8	ロールサイレージ
計		43	

位置と自然環境 LOCATION AND NATURAL ENVIRONMENT

本場 赤城山南麓に位置し、標高 360m、南斜面で表層腐植黒墨土、年平均気温 15.2℃、降水量 1,082mm

交通ガイド ◇畜産試験場◇

- ◆自動車利用
関越自動車道 前橋ICより約40分、駒寄スマートICより約25分、赤城ICより約20分
- ◆バス利用
JR前橋駅から関越交通バス「富士見温泉行」「国立赤城青少年交流の家行」畜産試験場入口で下車(約35分)